

## 令和5年度 学校アクションプラン 年度末評価

龍谷富山高等学校

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：達成しなかった

重点項目	<b>1. 教科指導</b>	
重点課題	生徒の学習意欲を高めるとともに、自主的に学習活動を進めていこうとする意識を高める。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら学習課題を見つけ、意欲的に学習活動に取り組もうとする生徒が少ない一方、与えられた学習課題には真面目に取り組む生徒が多い。</li> <li>・学習時間が充分であるとは言えない。</li> <li>・目標を持って、学習時間の確保や学力向上に取り組む生徒は少ない。</li> </ul>	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭での学習時間が全くない生徒を減らす。</li> <li>・計画的に学習を進めていこうとする意識を高める。</li> <li>・学年末の評価で不認定となる生徒を減らす。</li> </ul>	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年数回学習調査を実施することで、生徒自ら学習を見つめなおす機会とする。また、教員は生徒の実態を把握し、学習意欲の向上と指導の参考とする。</li> <li>・定期考査毎に目標設定、学習時間設定の用紙を配付し、学習意欲を高める。</li> </ul>	
達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度よりも学習時間が増えたと回答した生徒(第4回学習調査データ)</li> </ul> <p style="text-align: center;">3学年 47% 2学年 48% 1学年 60%</p>	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間で4回学習時間調査を実施する。</li> <li>・定期考査前に目標設定・学習計画のプリントを配付する。</li> <li>・支援追試・補習を実施する。</li> </ul>	
評 価	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭での学習時間が全くない生徒を減らす。→評価C</li> <li>・計画的に学習を進めていこうとする意識を高める。→評価B</li> <li>・学年末の評価で不認定となる生徒を減らす。→評価C</li> </ul>
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭で学習できない生徒に対して、定期考査前の学習支援の為の補習等を利用し、生徒の学習に対する意識を高める。</li> <li>・教員側の意識改革。</li> </ul>	

重点項目	<b>2. 宗教教育</b>	
重点課題	<p>(1)「学園の心」の具現化に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「おかげさまで」という感謝の心を、言語化および行動化する</li> </ul> <p>(2)慈光堂や教室内で「合掌する姿＝優しい姿勢」を美しく保つことを、常に意識する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・beauty of form＝様式美</li> </ul> <p>(3)報恩献金・募金活動の活性化</p>	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慈光堂を、本校における「中心となる場所」「特別な場所」として、教員・生徒ともに認識していることが、礼拝の態度から感じることができる。</li> <li>・数年来のコロナ禍により、本校が宗門校として歴史・伝統ある学校であり、多くの人の思いを受け継いで今がある、という認識が希薄化している。</li> </ul>	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慈光堂では、教員・生徒ともに、人の話に耳を傾ける時間・心を落ち着かせる時間・心の身だしなみを整える時間であることを、共通認識とする。</li> </ul>	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種礼拝で、多くの教員に講話の機会を持ってもらい、宗門校の教員であるという意識を高めるとともに、生徒に「気付き」を与えられるような講話を提供する。</li> <li>・「報恩の日」に生徒(3年生)が話す機会を設けることで、生徒自身が同世代の思いや考えを知り、己の日常に刺激を与えるきっかけとする。</li> <li>・【入堂前】行事は特別な時間であることを生徒に意識させるため、移動時から静かにする・正装(ブレザー着用)で臨む・念珠を持参する等、担任が教室での指導を徹底する。</li> <li>・【入堂後】生徒指導部が閉扉した状態で注意喚起したのち、開扉し、行事を開始する。</li> <li>・行事や礼拝前に、報恩献金の意義について話す。</li> </ul>	

達成度	計画に従って、宗教行事・各種礼拝を、着実に実施した。	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年・クラス・報恩の日の礼拝や学年報恩講(3年)において、担当教員が生徒に気付きを促す内容が多く、生徒も傾聴していた。</li> <li>・2月の報恩の日の礼拝で、3年生の生徒が、高校進学は大きな決断だったが、部活動を通して3年間たくさん失敗を経験出来てよかった。人は成功より失敗から学ぶことの方が大きい、恐れずいろいろなことにチャレンジしてほしいと、後輩に語った。</li> <li>・1、2月の報恩献金(募金)は、すべて能登半島地震義援金とした。</li> <li>・学年報恩講の実施</li> <li>・報恩献金から、様々な団体・法人・ボランティアグループに送金した。</li> </ul>	
評価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導部との連携により、厳かな雰囲気の中で、各種行事を執り行うことができた。</li> <li>・各種行事・礼拝で、担任が入堂前指導を徹底していた。</li> <li>・例年より多めに各種団体に送金できた。</li> <li>・上記の通り多くの教員・生徒が、報恩の日の礼拝・学年礼拝・クラス礼拝・毎日の礼拝での講話の準備を徹底し、生徒の琴線に触れる話をした。</li> </ul>
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・能登半島地震被災者への継続的な支援</li> <li>・行事前の生徒指導部との連携の継続</li> <li>・卒業式で行った、合掌の際のお念仏を、全生徒が唱えるようにする。</li> <li>・報恩の日の礼拝における、3年生生徒講話の継続</li> <li>・行事終わりに、学園の心を唱和する</li> <li>・次年度の、毎朝の礼拝・学年礼拝・クラス礼拝・報恩の日の礼拝・各種報恩講といった行事も、生徒にとって良い言語体験の場となるべく、真摯に取り組む。</li> </ul>	

重点項目	<b>3. 進路指導</b>
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路について高い目標を設定し、その目標に向かって積極的に行動する生徒を育成する。</li> <li>・進学の実績を向上させるための取り組みを推進する。</li> </ul>
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路に対する意識はあるものの、向上心があまり見られなかったり現状で満足して進路先を選択したりしてしまう生徒が多く見受けられる。</li> <li>・進学先や就職先について積極的に情報を集めようとする姿勢は見られるものの、幅広い視野で情報を集め、それを自分の将来や適性に合った進路に結び付けて目標設定する生徒が少ない。</li> <li>・進路目標達成のために授業進度の改善や学習量の確保が必要である。</li> </ul>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路実現に向けて意欲的に調べたり行動したりする生徒90%以上</li> <li>・生徒の進路希望に合った適切かつ有効な情報を提供し、進路実現に向けて役立てることができるよう支援する。</li> <li>・進学を希望する生徒の学力向上に向けた支援を強化し、進路目標の達成を図る。</li> </ul>
方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「進路の手引き」や進路情報誌を活用し各学年の生徒の実態に応じた進路指導を実践する。</li> <li>・進路意識が高まるようなガイダンスや研修ならびに学力向上を目的とした講習・補習を充実させる。</li> <li>・生徒の家庭環境や学習環境を把握し、また学力分析を行うことで適切な進路指導を行う。</li> <li>・代々木ゼミナールや「進学部」と連携・協力し、高い進路目標を持つ生徒の進路を実現させる。</li> </ul>
達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生の進路状況【3/18現在】・・・在籍230名中217名決定(95%)、未定・その他12名(5%) 4年制大学(55名:25%) 短期大学(24名:11%) 専門学校(70名:32%) 就職(68名:31%)</li> <li>・国公立は、新潟大学に1名合格。関係校へは10名送り出した。</li> <li>・早稲田大学、京都外国語大学、日本体育大学(以上総合型選抜)や専修大学、国士舘大学(以上スポーツ推薦)など個々の特質を活かして合格を決めた生徒がいた。</li> <li>・就職については就職希望者内定100%を達成した。</li> </ul>
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生については、卒業直前まで学年と協力して個別支援を実施し、進路先の決定を行った。</li> <li>・1、2年生については、「進路希望調査」を2学期末に実施し、結果をもとに教職員に向けて情報収集と個別支援を依頼した。また、外部で実施されている「進路説明会」を周知し、早期からの情報収集を行うように投げ掛けた。</li> <li>・1年生の「進学スプリングキャンプ」を通して、関係校の生徒であることや大学進学に向けた意識の醸成を図った。</li> </ul>

評価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生の「進路活動アンケート」の結果・・・意欲的に活動した生徒96%、進路満足度92%</li> <li>・1, 2年生に向けた進路行事も予定通り実施し、年度当初に予定していた支援ができた。</li> </ul>
次年度に向けての課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領のもとで行われる「大学入学共通テスト」についての対策を各該当教科で行う必要がある。</li> <li>・年間行事予定の変更に伴い、進路に関する行事や活動を見直し、より有意義な活動を計画・展開をしていきたい。</li> </ul>

重点項目	<b>4. 生徒指導</b>	
重点課題	龍谷富山高等学校の一員としての誇りを持ち、規律正しい学校生活を送る。	
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな問題行動は減少しているが、生徒間トラブルや特に校外で制服の着こなしに乱れが見られる。</li> <li>・規範意識が薄く、校則を安易に破ってしまう行為が見られる。</li> </ul>	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正装の徹底</li> <li>・いじめ0</li> <li>・命を守る</li> </ul>	
方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正装指導の徹底と巡視。</li> <li>・学園生活調査や面談等を通して生徒の現状把握に努め、心の教育を推進する。</li> <li>・交通安全教室や集会を通して命の大切さを伝える。</li> </ul>	
達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男子生徒の制服の着こなしに大きな乱れは見られなくなってきたが、女子生徒の特に校外でのスカート丈については、課題が残る。</li> <li>・いじめ（嫌がらせ行為を含む）と捉えられる案件が3件確認されてしまった。</li> <li>・幸いにも命に別状はなかったが、自転車を利用しての事故被害が5件出てしまった。</li> </ul>	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・服装指導強化週間の実施と校外巡視の実施。チェックカードを利用して放課後指導を行った。</li> <li>・学園生活調査と心のチェックシートを実施し、生徒たちに悩み事や心配事がないか、定期的に確認した。</li> <li>・7月にJAと連携して交通安全教室を実施した。また、全校集会を利用して交通事故や水難事故、若者の自殺に関する話をし、命の大切さについて指導した。</li> </ul>	
評価	C	それぞれの目標に対し、達成に向けてさまざまな形で指導・支援をしてきたが、まだまだ目標の達成には至らない。
次年度に向けての課題	あいさつや時間を守ること、人に迷惑をかけないなど、できていることが当たり前であってほしいことができていない生徒が多い。指導を受けた生徒が再び同じ行為で指導を受けることもあり、基本的な生活習慣の確立と規範意識のさらなる向上を図りたい。大半の生徒は、規則正しく高校生活を送っているのだから高いレベルを目指して伸ばしていきたい。	

重点項目	<b>5. 特別活動</b>	
重点課題	学校行事や生徒会活動、部活動、SDGs活動等を通し、自主性・責任感・協調性などを育成する。	
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動や学校行事などに意欲的に取り組み、充実した学校生活を送っている生徒がいる一方で、日々の学校生活を無為に過ごしている生徒も一定数いる。</li> <li>・体育大会などの学校行事には積極的に取り組む生徒が多いが、生徒会活動や委員会活動に積極的に取り組む生徒は少ない。</li> <li>・令和3年度に「RYUTOMI◆SDGs◆ゴール∞」を実施しているが、生徒たちに浸透していない。</li> </ul>	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動加入率65%（昨年度60%）。</li> <li>・月に1回の委員会の日を作り、各種の委員会活動を活性化する。</li> <li>・SDGsを意識した生活を送っている生徒60%（年度末にアンケート実施）。</li> </ul>	

方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部紹介の時に、1年生に各部の紹介プリントを配布し、体験入部の日程等が伝わりやすいようにする。また、担任から部活動の意義を伝えてもらう。</li> <li>・今まで委員会活動をしていた常任委員会（美化・校紀・福祉）だけでなく、クラス委員として設定されている全ての委員会を実施する。各委員会について、特活部の教員と生徒会執行部の生徒が中心となり、毎回の委員会のテーマを決め、短時間で実りある委員会となるようにする。</li> <li>・1年生の探究活動や、2，3年生の代議員会などで SDGs について考える機会を作り、意識した生活を送ることができるようにする。</li> </ul>
達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動加入率は60%となり、昨年度と変わらない結果となった。</li> <li>・委員会活動では、生徒の意見を取り入れ、新しい取り組みを行う委員会が多く見られた。</li> <li>・「SDGs 意識調査」の結果、SDGs を「意識して生活するようになった」「少しは意識して生活するようになった」と回答した生徒は71.0%であった。</li> </ul>
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化祭では文化部の部活動体験を行い、部活動の特徴を分かってもらえるように工夫した。</li> <li>・月1回の委員会活動では、各委員会の担当教員と生徒会執行部の生徒で取り組む内容を決め、活動を行った。</li> <li>・各クラスで「SDGs 宣言」を行い、SDGs 活動に取り組んだ。1年生は探究活動で調べた内容を文化祭で発表し、その後自動販売機横にペットボトルキャップとペットボトルのラベルを入れるゴミ箱を設置した。2年生は2組を中心として海岸清掃を実施したり、沖縄について SDGs の視点から調べたりするなど、様々な活動に取り組んだ。生徒会では、SDGs の視点から不用品の回収を行っている企業から不用品をいただき、別の品物に作り替える活動を始めた。</li> </ul>
評 価	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動加入率については目標を達成できなかったが、委員会活動と SDGs 活動については目標を達成することができた。</li> </ul>
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動を行う利点を生徒に理解させ、部活動に加入する生徒を増やしたい。</li> <li>・委員会活動は、他の校務分掌と連携しさらに活動内容を深める必要がある。</li> <li>・SDGs 活動をさらに発展させていきたい。</li> <li>・コロナで中断している施設訪問などのボランティア活動を再開させたい。</li> </ul>

重点項目	<b>6. 環境と健康指導</b>
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整った環境で学習や各種活動に取り組むため、環境美化についての意識向上を図り行動化することで環境管理（美化）と危機管理（災害）につなげていく。</li> <li>・「自分の健康（命）は自分で守る」という意識を持ち、疾病予防や健康の保持増進に努める態度を身につけさせる</li> </ul>
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみを自ら拾ってごみ箱に捨てる習慣が少なく、美化に対する意識が低下しており、清掃活動の形骸化につながっている。</li> <li>・健康診断後の受診率が低く、自らの健康への意識が希薄である。</li> </ul>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「きれいな学校・気持ちの良い学校」を目指し、丁寧な掃除活動や進んでごみを拾う姿などが日常化する学校を目指す。</li> <li>・健康診断後の受診率の向上を図る。 各学年及び全校・・・30%以上</li> </ul>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各担当場所に手順表を掲示し、教員も一緒に清掃活動を行い、環境美化に対する意識を高める。</li> <li>・校内外の環境美化については、特活部（美化委員、保健委員）等と協力して行い、意識化を図る。</li> <li>・健康診断後は、受診カードを生徒に配布し受診勧奨するとともに、学期末の保護者懇談会の機会を捉えて保護者に対しても受診行動への喚起を行う。学期ごとに受診状況を集計し周知する。</li> <li>・「ほけんだより」を発行し、保健に関する情報提供と知識の向上を図る。</li> <li>・外部講師による保健講座を行い、健康の保持増進につなげる。</li> <li>・感染症を含めた疾病予防のための基本行動（清潔保持、咳エチケット、早期受診、休養など）を自ら実践できる態度と意識の喚起に努める。</li> </ul>
達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃活動においては、教室、階段、トイレの手順表を掲示し、教員に各担当場所の確認をするように徹底を行ったが、ほこりが溜まっていることもあった。しかし、随時、呼びかけることにより、以前よりもきれいになった。</li> <li>・健康診断後の受診率が22.9%で前回よりもあがった。</li> </ul>
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各掃除担当場所の確認を教員がするように徹底し、環境美化の徹底を行った。また、随時教員に呼び掛け、環境美化の徹底を行った。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>各担任を通じて、受診カードの配布時に受診の喚起を行った。また、保健委員にも各クラスに呼び掛けてもらい、受診の喚起を行った。</li> </ul>	
評 価	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>清掃活動においては、教室、階段、トイレの手順表を掲示し、環境美化を呼び掛けることによって各清掃場所がきれいになったが、徹底までには至らなかった。</li> <li>各担任や保健委員を通じて受診の喚起を行うことによって前回の受診率よりはあがり、各学年2クラスずつ目標を達成することができたが、各学年及び全校で受診率の目標を達成するまでには至らなかった。</li> </ul>
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>教室、階段、トイレの手順表の徹底。</li> <li>受診率の向上。</li> <li>美化委員、保健委員との連携。</li> </ul>	